

文が前接する「感」の形式的・意味的特徴についての考察

泉大輔

東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士課程前期国際日本専攻

daisuke.izumi7@gmail.com

1. はじめに：「感」に前接する要素の拡大

従来、名詞「感」には以下の例 (1) のような連体修飾節を伴う用法がある¹⁾。例 (1) は、「世界経済を一国で牽引している」という部分が連体修飾節を形成し、名詞「感」を修飾している。

- (1) IT 関連やネットワーク関連を中心に、いまやアメリカは世界経済を一国で牽引している感すらある。 (高原慶一朗『チャレンジ立国論』 サンプル ID: LBo3_00008)

一方、金田 (2014) など、「感」に前接する要素が拡大しているという指摘もなされている。インターネットで検索してみると、例 (2) や (3) のように、モダリティ形式を含む文や「」で囲まれた文が「という」などを介さずに「感」に前接する実例が観察される。

- (2) 嗚呼、1 日を無駄に過ごすってこういうことを言うんだろうなあ感漂いまくる怠惰な一日を過ごしました。 <https://goo.gl/44HDeS> (2017 年 2 月 5 日閲覧)
- (3) 「やっちゃったなあ」感が好きな人にはお勧めです。
(Yahoo! ブログ サンプル ID: 0Y04_05982)

例 (2) のような終助詞「なあ」などに後接する「感」の用例は、節内に終助詞・意志形・命令形・感動詞などのモダリティ形式は現れないという連体修飾節の制約条件 (大島 2003) に反するものであり、従来の連体修飾節の説明に合わない形式が「感」に前接していることが窺える。

曾 (2016) では、例 (2) のような終助詞に接続する「感」の用法は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の Yahoo! ブログに数例しか観察されないため、例外的な用法と位置付けている。しかし、文末が終助詞である文に接続する「感」を『国語研日本語ウェブコーパス (NWJC)』²⁾ で検索すると、約 1,350 件の実例が見つかった。例外的な用法だとしても、このような従来とは異なるタイプの用例も考察対象に入れた上で、「感」のあらゆる用法を明らかにしていきたい。

そこで本研究では、例 (2) (3) に代表されるような新しい用法の「感」について、その形式的特徴と意味的特徴について分析していく。

2. 「感」に前接する文の形式的特徴

以下の例 (4) ~ (6) のように、終助詞以外にも、意志形・命令形・感動詞といったモダリテ

「感」を含む文に接続する「感」の実例が観察された。これらは上述の例 (2) (3) と同様に、連体修飾節の制約条件 (大島 2003) に反するものである。

- (4) 初期はまだどこか純粹に動画を楽しもう感があった

<https://goo.gl/rTqRmX> (2017年2月5日閲覧)

- (5) 声的には、春馬くん声優初挑戦と言うことでもうちよ頑張れ感はありました…

<https://goo.gl/ToBgBr> (2017年2月5日閲覧)

- (6) 個人的には、うわぁ出ちゃったよ感 MAX ですね・・

<https://goo.gl/SFtby1> (2017年2月5日閲覧)

また、以下の例 (7) (8) のように、引用文に用いられる「」で囲まれた文相当の形式や、書籍などのタイトルの表記に用いられる『』で囲まれた文相当の形式に接続する用例も観察された。

- (7) 「やっちゃまったなあ」感が好きな人にはお勧めです。(再掲)

(Yahoo!ブログ サンプル ID: 0Y04_05982)

- (8) 何か凄いの『私は全部分かっているわ』感炸裂だなあと。

<https://goo.gl/sBynKC> (2017年2月5日閲覧)

上述の例 (2) ~ (8) をふまえて、従来の連体修飾節とは異なる用法の「感」に前接する要素の形式的特徴は、以下の2点であると考えられる。第一に、前接する文中にモダリティ形式 (終助詞・意志形・命令形・感動詞) が現れるという点である。第二に、モダリティ形式を含む文が「」や『』に囲まれ、「という」「との」「ような」などを介さずに直接「感」に前接する可能性があるという点である。

3. 従来とは異なるタイプの文が前接する「感」の意味的特徴

3.1. Aタイプ: 前接する発話例から想起されるイメージを抱かせる様相・雰囲気

Aタイプは、以下の例 (9) や (10) のように、対象となっている人物がいかにも発言しそうな発話内容を引用形式で「感」に前接させるという特徴を有する。

- (9) 今日がGD初ということをやっただけで、『君は黙ってしてくれるかな』感を出すやつ。

<https://goo.gl/iKQp8T> (2017年2月5日閲覧)

- (10) 経済産業省の資料が『日本どうにかしようぜ』感満載。興味深く読んでみました。

<https://goo.gl/WHMddU> (2017年6月5日閲覧)

例 (9) では、その人物がいかにも発言しそうな発話内容を引用形式で「感」に前接させることにより、話者が対象となる人物から感じ取った「嫌味である」「上から目線である」というよ

うな様相や雰囲気を描写している。例(10)も同様に、経済産業省の官僚があたかもこのような発言をしていたかのような印象を文面から感じ取り、その資料の様相を描写しているのである。なお、「感」に前接する発話内容が実際に発言されたものかどうかについては不問である。

例(10)では、発話が引用される際に用いられる「」で囲まれた文が前接しているが、例(9)では、書籍などのタイトルを表記する際に用いられる『』で囲まれた文が前接している。単に発話内容を引用するのであれば「」でよい。しかし、文字化する際に『』があえて用いられているのは、話者が受けた印象にもとづき命名した一種のタイトルあるいはキャッチコピーのようなものをその人物に付しているからではないだろうか。それによって、その人物の性格や態度をより端的にわかりやすく描写しているのだと考えられる。

また、第三者の様相に関する描写がほとんどであるが、時には描写すべき対象人物が話者自身の場合もある。この場合は、以下の例(11)のように、自分がいかにも発言しそうな発話内容を引用することになる。例(11)は、発話例からイメージされるような話者の様相や雰囲気を周囲の人々が感じるであろうと話者自身が想定している。

(11) 『ボクはナチュラルですよ』感を出した。

<https://goo.gl/aY0cMA> (2017年2月5日閲覧)

以上、Aタイプは、ある人物がいかにも発話しそうな例を用いることで、言語で説明するのが難しい雰囲気や印象というものを端的に描写することが可能となり、それによって聞き手がその人物のイメージを想起しやすくなるという意味・用法上の特徴を有する。

また、Aタイプの前接要素の形式的特徴として、モダリティ形式を含む文や、直接引用あるいは表題などを示す際に用いられる「」や『』を伴う実例が多く見られる。

3.2. Bタイプ：前接する発話例で示されたような感想を抱かせる様相・雰囲気

Bタイプは「感」に前接する発話例が話者自身の独話であり、以下の例(12)～(15)のように、話者がある対象から抱いた感想を表現しているのが特徴である。

(12) この映画を作ったことでハリウッドの役目は終わったかな感も漂ってくる始末でした。

<https://goo.gl/bSu0Ws> (2017年2月5日閲覧)

(13) なんていうんだろう、月日は流れたんだなあ感が、胸に広がりました。

<https://goo.gl/vqUDzE> (2017年2月5日閲覧)

(14) 出来に関しては正直アレなんですけど、自分の絵が本になってるよ感っていうのは、結構な感動でしたよ。

<https://goo.gl/3WWyAD> (2017年2月5日閲覧)

(15) 何かもう歌詞が残念なんだよな感満載で、本当に残念。

<https://goo.gl/LDIurQ> (2017年2月5日閲覧)

このような用例はインターネット上のブログに多く見られる。ブログは日記形式で日々の出来事に関する感想を書くものであり、自身の独話をそのまま「感」に接続させて感想を表現するという手段が適しているのだと考えられる。

また、Bタイプの形式的特徴としては、直接引用あるいは表題などを示す際に用いられる「」や『』を伴わず、モダリティ形式を含む文に直接「感」が接続する事例が多く見られる。

4. まとめと今後の課題

モダリティ形式（終助詞・意志形・命令形・感動詞）を含む文および「」や『』に囲まれた文といった、従来の連体修飾節とは異なる要素が前接する「感」の実例を見てきた。このような形式的特徴を有する用法には、対象となる人物がいかにも発言しそうな発話を引用することでその人物の性格や態度を描写したり、発話者の独話を引用する形で自身の感想を述べたりするという意味的特徴が見られた。

また、金田（2014）などでも指摘されているように、「もちもち感」「やらされ感」といった従来は接続しなかったような様々な要素が「感」に前接しており、旧来的な「責任感」「罪悪感」といった語とは質を異にする事例も多く観察される。これらを含めて包括的に「感」の全体像を明らかにしていくことが今後の課題である。

注

- 1) 本発表における例文のうち、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から用例を採取したものには ID を付し、Google(<https://www.google.co.jp>)を使用して検索した用例には URL と閲覧日を記載する。また、当該の「感」を含む表現に付した下線はすべて発表者によるものである。
- 2) 国立国語研究所が開発した 100 億語規模を収録する日本語コーパスのことであり、2014 年 10～12 月にウェブ上の日本語テキストから収集されたデータの「文字列検索」「品詞列検索」「係り受け検索」を行うことができる (http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/nwjc)。

参考文献

- 大島資生（2003）「連体修飾の構造」北原保雄編『朝倉日本語講座 5 文法 I』朝倉書店, pp. 90-108
- 金田英里（2014）「接尾辞としての『一感』に前接する要素の拡大」『日本語教育論集』第 23 号, 姫路獨協大学大学院, pp. 1-8
- 曾睿（2016）「句・節・文に接続する「感」の位置づけ—名詞「感じ」との比較を通して—」『言語科学論集』第 20 号, pp. 51-63